



スカッキ『健康的飲料論』に掲載された日本製熱爛道具図

今回紹介する図版には三種類の器具が上中下三段に描かれている。このうち中央部分にみられるのは日本の熱爛諸道具である。この図版は、1622年にローマで刊行された『健康的飲料論』に掲載されている。著者のフランシスコ・スカッキは17世紀前半に活躍したイタリアの神学者であり、知識人でもあった。同書でスカッキは、飲料の健康的な飲み方、とりわけ冷やして飲むべきか、それとも温めて飲むべきかについて、古典を引用しながら議論を展開している。その議論の中で興味深いのは、著者が飲料と健康の関係について日本の茶と酒を引き合いに出して論じていることである。同書第2章でスカッキは、日本産の飲料の情報について1615年にローマを訪れた奥州の使節〔慶長遣欧使節・支倉常長〕から直接伝授されたと記し、飲料を適宜に温めたり、冷やしたりする日本人は非常に健康的な国民であると結論づけている。上記図版が掲載されている第六章では飲料の冷却と過熱の方法が解説されている。図版の中央に常長が持参した熱爛諸道具を写し描いた図が配され、日本の道具から著者が着想を得て製作した冷却器具(上)と過熱器具(下)の図がその上下に配されている。